

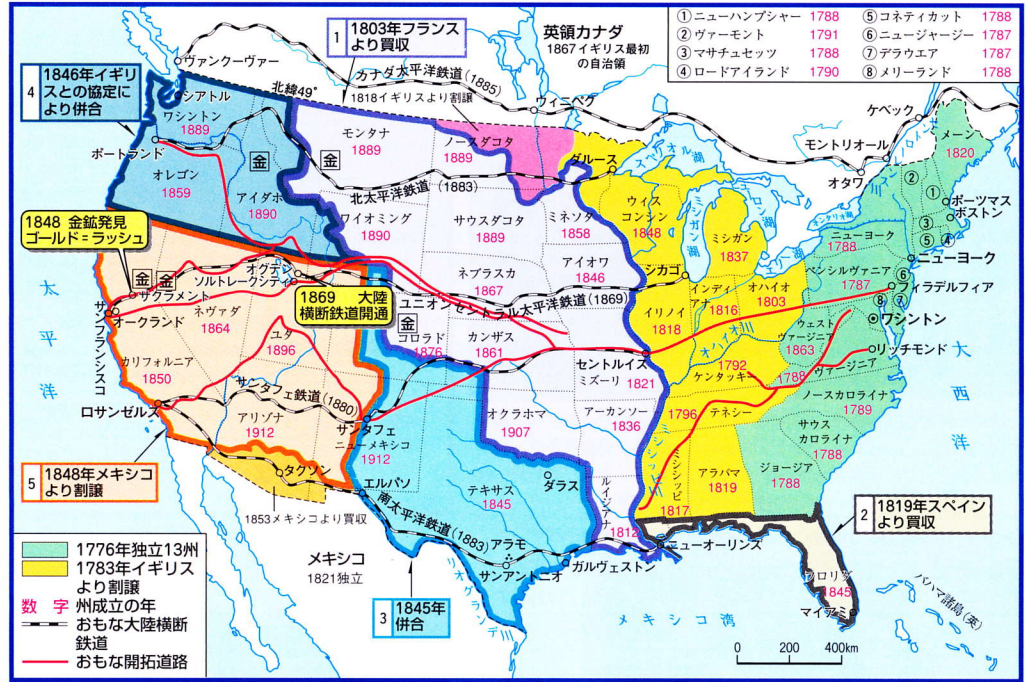
2 合衆国の領土的拡大

1 合衆国の発展

領土関係 緑字: アメリカインディアン史 赤字: アメリカインディアン史 民主党 共和党

Table with 2 columns: Year/Event and Description. Includes '内政・外交・領土関係' and '新しいアメリカ' sections.

Table with 2 columns: Year/Event and Description. Includes 'アメリカインディアン・奴隷関係' and 'アメリカの自立・西部への発展・南北の対立' sections.



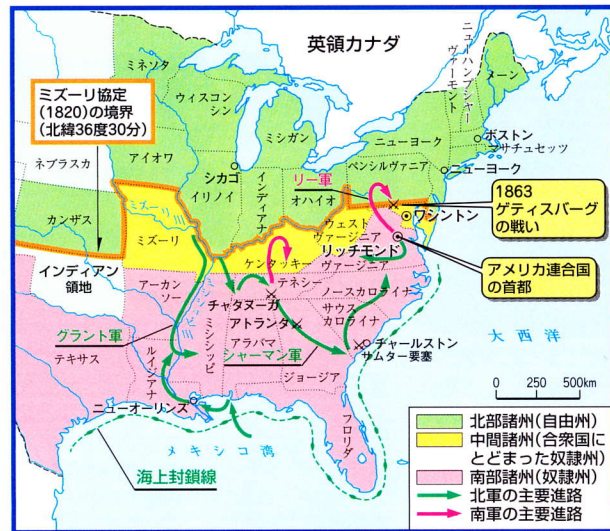
西部開拓 A 『大草原の小さな家』 (ローラ・インガルス・ワイルダー作) 1935年

B ジーンズの起源 ジーンズの起源は19世紀中頃、西部開拓時代のアメリカにさかのぼる。

C ゴールドラッシュ 1848年カリフォルニアで金鉱が発見され、全アメリカ・ヨーロッパから移住者が殺到し、49年だけで8万人に及んだ。

資本主義の発展 帝国主義の形成

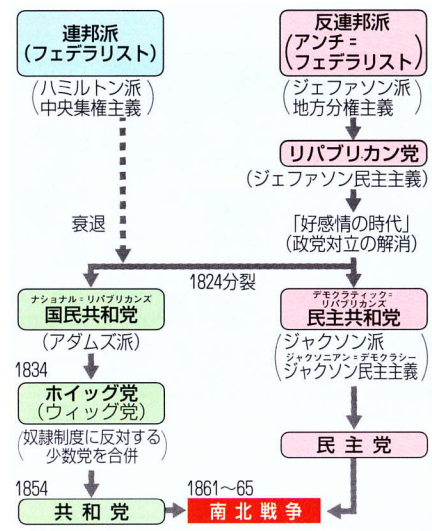
3 南北戦争当時のアメリカ(1861~65年)



●1860年当時における南北の利害対立点

地域	中心産業	貿易政策	奴隷制度	政体・政党	州数・人口	農地	工場	国富
北部	資本主義的商工業	保護関税政策	反対	連邦主義 (共和党)	18(自由州) 約1870万	67%	81%	75%
西部	自営農業	自由貿易						
南部	プランテーション (大農園)(綿花)	自由貿易	賛成	州権主義 (民主党)	15(奴隷州) 約1150万(奴隷約400万)	33%	19%	25%

4 アメリカ政党の変遷



◆綿花プランテーション イギリス産業革命とホイットニーの綿織り機発明で綿花需要が急増、アメリカ南部の綿花栽培が拡大した。綿花の摘み取りは手作業で行われたので、黒人奴隷が1780年の70万人から1860年の400万人に急増、炎天下で過酷な労働を強いられた。



◆「アンクル・トムの小屋」(1852年ストウ夫人作)の宣伝ポスター(1869年) 黒人奴隷の悲惨さを世界に訴えたこの本は、初年度だけで国内で30万部売れ、奴隷制反対の気運を盛り上げた。しかし、白人に忍従し無気力で怠惰な黒人というイメージが造られ、現在、「アンクル・トム」は黒人に対する差別的表現となっている。

◆ストウ夫人 (1811~96 アメリカ)

◆解説 北部の資本家は、解放奴隷を雇用労働力とするため奴隷制度に反対した。

東西から進んできた機関車と開通を喜ぶ工事関係者

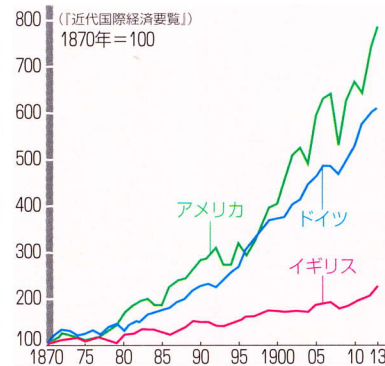


◆大陸横断鉄道 南北戦争後の1869年、ユタ准州オグデン西方のプロモントリー=ポイントにおいて、東進してきたセントラル太平洋鉄道と西進してきたユニオン太平洋鉄道の最後のレールがつながり大陸横断鉄道が開通、広大な西部の国内市場と東部(北部)の工場地帯が結びついた。なお、セントラル太平洋鉄道の建設には、低賃金で働く中国系移民が多く動員された。

アメリカ資本主義の発展

◆解説 南北戦争後、アメリカは西部開拓による国内市場の統合、豊富な国内資源、安価な労働力としての移民の流入(▶P171)などを背景に急速な経済発展をとげた。19世紀末独占化(トラストが発達)が進行し、世界一の工業生産力を誇ることとなったアメリカは、やがて米西戦争を機に帝国主義政策を展開し、カリブ海・太平洋に進出した。

●主要国の工業生産



◆「石油王」ロックフェラー (風刺画) 「自由の女神」の姿をしたロックフェラーが右手に地球、左手に石油ランプをかけた「独占」の樽の上に跨っている。1882年スタンダード石油トラストを形成し、巨万の富を築いた彼は国民の羨望の的であった。

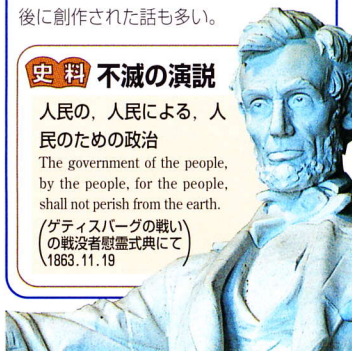
リンカン(1809~65)

一丸土小屋からホワイトハウスへ

アメリカで最も敬愛されている大統領。ケンタッキーの貧しい農民の子に生まれ、正規の学校教育は1年に満たなかったが、独学で弁護士になり成功して政界に進出した。極端な奴隷制廃止論者ではなく、合衆国の分裂を阻止するために南北戦争を開始したが、奴隷解放宣言は戦争目的を明確にし内外世論の支持獲得をもたらした。立身出世の典型であるが、生まれや青年時代については不明点が多く、後に創作された話も多い。

史料 不滅の演説

人民の、人民による、人民のための政治
The government of the people, by the people, for the people, shall not perish from the earth.
(ゲティスバーグの戦いの戦没者慰霊式典にて) 1863.11.19



アメリカ=インディアン(ネイティブ=アメリカン)史	
迫害	1755~63 フレンチ=インディアン戦争 イギリス軍と抗争
	1775~83 独立戦争 イギリス軍に協力 → ワシントンによるインディアン討伐
	1812~14 米英戦争 イギリス軍に協力
	1830 インディアン強制移住法
	1838~39 チェロキー族「涙の道」(悲惨な強制移住の旅)
	1849~ ゴールド=ラッシュ → インディアンの土地を収奪
	1851 保留地政策の開始
	1861~65 南北戦争 北軍・南軍ともにインディアンを味方に引き入れようとする
	1864 サンド=クリークの虐殺
	1870~ 白人社会の西部への急激な拡大 → 激しい抗争 スー・シャイアン・アパッチ族(ジェロニモ)らの抵抗
法的保護	1887 ドーズ=般土地割当法 → インディアンを白人社会に同化させる
	1934 インディアン再組織法…自治を認め部族主義復活
権利回復	1944 全国アメリカ=インディアン会議設立
	1953 連邦管理終結政策 → 部族社会の解体を導く
	1960~ レッド=パワーの高まり (● 民族固有の権利 ● 諸条約の尊重)
	1968~ アメリカ=インディアン運動(AIM)開始
	1969~71 アルカトラス島占拠 → 全米のインディアンに連帯を呼びかける
	1980 最高裁でスー族の勝利 → 白人の土地奪取は違法

迫害 → つくられたイメージ → 権利回復



● 強制的に移住させられるインディアン
白人の西部開拓はインディアンの生存権をおびやかすこととなった。ジャクソン大統領は、1830年強制移住法を制定して彼らをすべてミシシッピ川以西に追いやった。





● 映画「駅馬車」(米・1939年製作)
ジョン=フォード監督の名作。野蛮なインディアンという誤った観念に基づく。



● 映画「ソルジャー=ブルー」(米・1970年製作)
1864年11月29日、コロラドのサンド=クリークで騎兵隊が白人に友好的だったシャイアンの村を襲い、100人余り(大半が女性と子供)を虐殺した史実に基づく。1960年代から、インディアンの権利回復の運動も活発になってきた。

● インディアン人口の推移



年	1845	1870	1880	1900	1920	1940	1960
人口(万人)	80	2.6	6.6	23.7	24.4	33.4	142.1

(アメリカ歴史統計など)


アフロ=アメリカン(黒人)史	
人種隔離完成	1863 奴隷解放宣言
	1865 憲法修正第13条(奴隷制廃止) 白人の反黒人組織K-K-K(クー=クラックス=クラン)結成
	1868 憲法修正第14条(黒人の市民権承認)
	1870 憲法修正第15条(黒人の選挙権承認) 南部で黒人に対するリンチ事件が始まる
	1896 最高裁判決(分離しても平等ならば合憲)
	1909 全米黒人地位向上協会設立
	1941 ローズヴェルト大統領特別命令(雇用差別禁止)
	1947 大リーグ初の黒人選手(ジャッキー=ロビンソン)
	1948 トルーマン大統領、軍隊での差別禁止命令
	1954 ブラウン判決(公立学校での人種分離教育は違憲)
黒人大衆の運動	1955 バス=ボイコット運動(アラバマ州モンゴメリー)
	キング牧師、南部キリスト教指導者会議結成
	1957 公民権法(黒人投票権保護) アーカンソー州リトルロック高校事件
	1960 公民権法(有権者登録の権利を保障)
	1963 ワシントン大行進
	1964 公民権法(人種差別撤廃) (P243 42史)
	マルコム=エックス、アフロ=アメリカ統一機構結成
	1965 ワッツ事件(ロサンゼルス暴動)
	1965 マルコム=エックス暗殺
	1968 キング牧師暗殺
格差是正	1992 ロドニー=キング事件(ロサンゼルス暴動)

差別 → 差別撤廃運動 → 権利拡大

● 解説 南北戦争後、南部各州は州憲法改定により黒人差別を施行した。

- 選挙権 祖父条項…南北戦争終了時、祖先が選挙権をもっていた者にのみ与える。
- 選挙登録 有料化、読み書きテストの実施。
- ジム=クロウ(人種隔離)制度 1896年、最高裁は合憲とした。異人種間結婚禁止も含まれている。

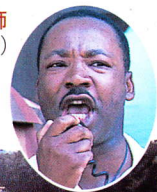
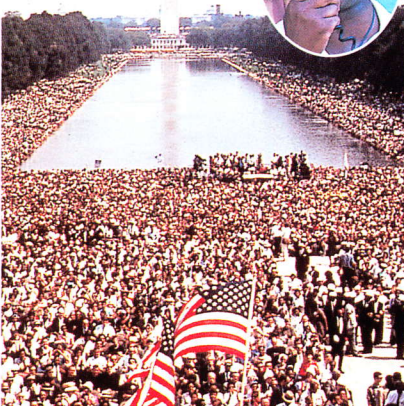
大リーグに対して優勢だった。(1948年実質的解散)



● 「ニグロ=リーグ」 1885年に最初の黒人だけのプロ野球チーム結成。1920年正式に「ニグロ=ナショナル=リーグ」成立。


● 初の黒人大リーガー ジャッキー=ロビンソン(1947年)

● キング牧師 (1929~68)

● ワシントン大行進(1963年8月28日) 奴隷解放宣言から100周年の年、キング牧師の指導で20万人がワシントン記念塔広場を埋めた。彼は「私には夢がある」の演説で非暴力の人種差別撤廃運動を訴えた。

● 解説 黒人差別撤廃運動が高まる中、1957年以降、数回にわたり公民権法が制定されたが、1964年のものが最も徹底していた。この法律では投票権の保障、公共施設での人種差別禁止などが定められた。(P243 42史)

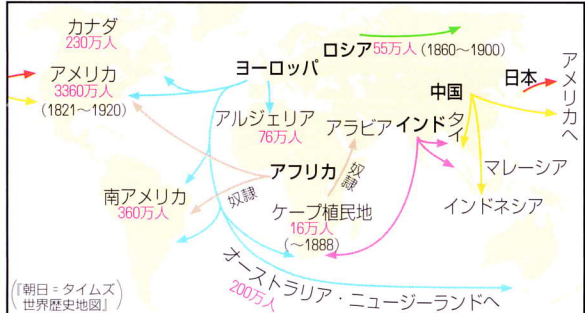


● ニューヨーク初の黒人市長デイヴィッド=ディンキンス(1989年) 1960年代後半から大都市で黒人市長が誕生し始めた。公民権法(1964)による黒人の投票率の増加と白人の支持層が拡大したことが要因。

1 19世紀世界の人口移動(1821~1910年)



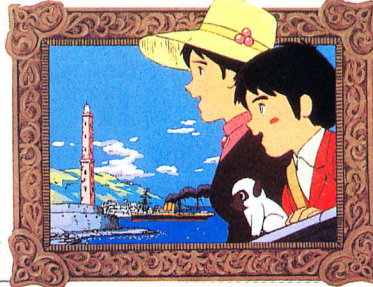
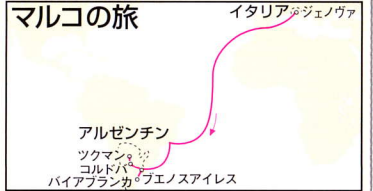
多民族国家マレーシア 先住のマレー人社会に19世紀、中国人が華僑として、インド人がイギリスによる植民地間の労働力移動として流入した。



解説 移民の要因には、政治・宗教・民族的迫害からの逃避などがあるが、「移民の世紀」といわれる19世紀の移民の急増は経済的理由が大半である。近代化による人口急増、農産層分解の本格化、伝統的社会秩序の崩壊などが世界的規模の経済変化を招き、人々は労働の場を海外に求めたのである。

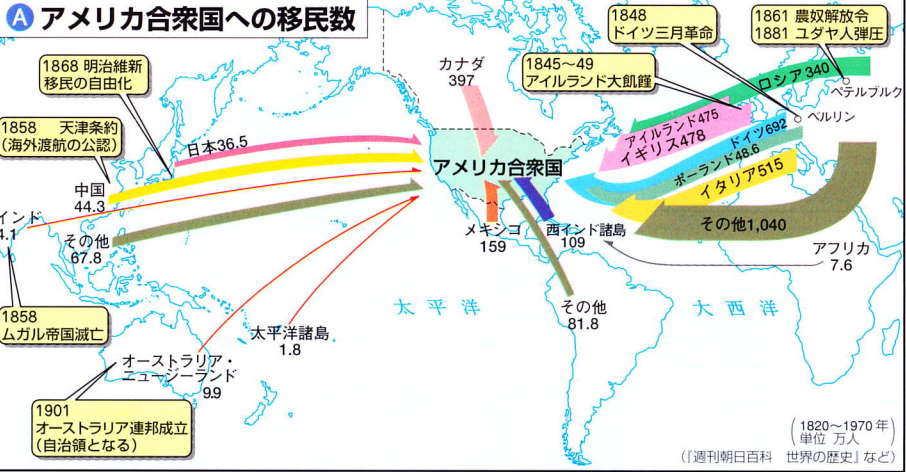
『母をたずねて三千里』(デ・アミーチス作 1886年)

イタリアのジェノヴァに住むマルコ少年(12歳)は、出稼ぎに行った母を追って1人アルゼンチンへ旅立つ。19世紀後半、アルゼンチンでは農牧業や食肉産業が盛んとなり、南欧から多くの移住者を受け入れていた。マルコの母もその1人であった。



アニメーション
『母をたずねて三千里』
宮崎 駿画 販売用ビデオのカバーより (日本アニメーション)

移民の国アメリカ

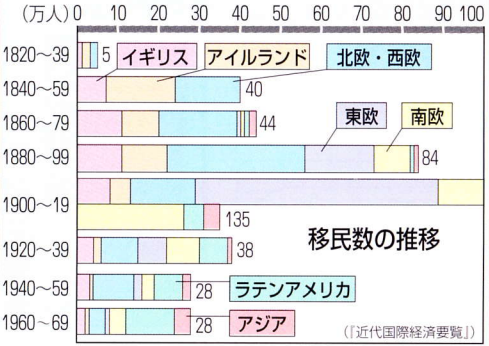


B 世界情勢と移民数の推移

— 世界情勢 —

1845~49年	アイルランド大飢饉 → 小農民の移民急増
1848年	ドイツ三月革命 → 政治的亡命者、農民の移民
1868年	中国の移民自由化
1868年	明治維新 → 日本人のハワイ集団移民
1880年代	イタリア移民急増
1881年	ロシアのユダヤ人弾圧 → ユダヤ系ロシア移民
1882年	中国人排斥法 → 日本人の移民急増
1924年	移民法 → 移民数の急減、及び新移民の抑圧
1937年	日独伊三国隔離演説
1965年	移民法改正 → 移民数増大

アジア・ラテンアメリカ移民の急増



解説 移民の歴史は次の3つの時期に分けられる。①イギリス・オランダ中心の植民地時代 ②1880年代までの北欧・西欧を中心とする旧移民 ③1880年代以降現在に至る、南欧・東欧を中心とする新移民 ただし、1924年の移民法により移民数は急減し、アジア系が抑制された。しかし、1965年の移民法改正により、アジアやラテンアメリカからの移民が急増している。

移民のポスター(1917年)
Remember Your First Thrill of AMERICAN LIBERTY



星条旗に向かって(合衆国の小学校で)
史料「自由の女神」の台座の詩
(ユダヤ人エマ・ラザルス作 1881年)

おぼろげに
汝の疲れたる貧しき
自由の空気を吸わんものと
身をよせあう人々を、
汝の豊かな海辺に集まる
うちひしがれた人々を、
我に与えよ。
かかる家なき嵐に弄ばれたる人々を、
我に送り届けよ。
我は黄金の門戸のかたわらに
ともしびを高くかかげん。(『アメリカ世界』有斐閣)



「神の名の下、すべての人々に自由と正義を与える、分かちえない国を象徴する。アメリカ合衆国の国旗とその国家に対し、忠誠を誓います。」

